

スリランカチーム受入報告

研究グループ交換委員会

副委員長 田中 義久(大阪西 RC)

平成23年11月4日より4週間のスリランカチームの受け入れは、当初の計画では春に行く予定であった。しかし3月11日の東日本大震災・津波被害・福島原発問題という三重苦により、日本全体での復興支援を目指すために、また日本の国際的イメージは最悪のものとなり、その年度での受け入れは中止となった。

そして年度が代わり、通常は年度をまたいだ予算執行の可否は不明でありましたが、国際ロータリーより了承の返答があり、また、いまだ放射能汚染のイメージの強い日本に対して、2004年に津波被害を受けたスリランカチームの熱い思い入れも頂き、春から秋に期間を移して受け入れプログラムが実行されたのである。

この期間変更のためか、スリランカチーム5名のうち2名のメンバーが変更された。しかも男性から女性への変更であり、ホストファミリーの受け入れという点で、また当然その職種も異なることから職業研修の研修先の変更の必要性から11月4日のプログラム開始直前まで様々な混乱が生じた。しかしながら天性の陽気なスリランカチームと誠意を持って「おもてなしの精神」を発揮していただいた各RCの方々、また陰に陽に協力していただいた様々な皆様方のおかげで、大きな問題もなくGSEの受入プログラムを終了することができたのである。

スリランカには生きた動物を食することを嫌う哲学があるようで、ほとんどがベジタリアンである。これは日本の江戸時代の考え方に近く、宗教上の問題ではないらしい。だから人によっては卵や鶏肉、魚は食するようである。日本人にはおもてなしで定番の「お寿司」もスリランカの人たちには味が薄い食品と映り、2週間後には「食べ飽きた」という声も聞いた。その割に、肉の入っていないネギ焼きは、七味や胡椒、からしをたっぷりしみこませて食べ、結構好評であった。

チームの名前はMAYURA、シンハラ語でクジャクという意味だそう。クジャクの美しい羽根は5色の構成要素でできており、それをチームの5名と重ねているらしい。来年2月には日本からスリランカへの派遣がある。クジャクの羽が日の光にあたって輝くように、GSE交換プログラムによってそれぞれの国の理解を深め、友好の光が広がってゆくことを祈りたい。

